

## 会派視察研修報告書

平成29年4月6日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ

代表者名 石川 輝彦

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員3名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	石川輝彦、神谷悟、杉浦文俊
日時	平成29年3月29日（水）
視察先	兵庫県芦屋市 NPO法人 兵庫県暮らしに優しい防災・減災
研修内容	芦屋市・・・防災、減災に対する取り組みについて
日程	芦屋市・・・10:00～12:00
備考	

# 視察研果報告書

平成29年 3月31日

議員氏名 石川輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期間 平成29年 3月29日（水）
- 2 視察先 兵庫県芦屋市（NPO法人 兵庫県暮らしにやさしい防災・減災）
- 3 視察の種類 市民クラブ視察（会派視察）
- 4 視察の成果等

### 【防災・減災の取り組みについて】

- ・巨大地震から少しでも被害を軽減させるためには、まずは「自助」「共助」が必要であり、阪神淡路大震災を経験し、防災・減災教育に取り組まれているNPO団体の視察を行った。
  - ・1995年1月に発生した阪神淡路大震災は直下型地震であり、家具は飛び跳ね天井を突き破り、その天井は壊れている本人の上に落下したとのことであり、この経験から、防災対策・減災対策の必要性を学び、理事長自らが2000年に防災士の資格を取得したことが取り組みの始まりとのことである。
  - ・その後、2011年7月に、幼い子供たちから高齢者の方までが、災害から命を自らが守ることを願った「防災カルタ」を創作し、9月には市民団体を発足、翌年8月に法人化し、「希望につながるコミュニティ」を目的に取り組まれている。
  - ・理事長いわく、50年前に災害対策基本法が施行されたことにより、日本全体で「公助」が当たり前となり、防災に対する自助意識が欠如し始めた。さらに今は、個人情報保護法により、要援護者に対する壁が出来てしまっているため、改めて今からの教育が必要であるとのことである。
  - ・このNPOは、子どもたちへの防災意識の向上を目指した教育活動を中心に取り組まれており、やさしい絵と短くてわかりやすい言葉の「防災・減災カルタ」を用い、20年計画で防災意識の啓発活動に取り組まれていた。さらに液状化を見ることが出来るものも自らが制作し、液状化の恐ろしさを教えている。
- ◇現在、碧南市には防災に関する市民活動団体は活動しているが、法人格を持った団体は存在していない。このようなNPOまたは市民団体と行政が協働（特に金銭面での援助）し、防災意識の啓発活動に取り組む必要があると感じる。



# 視察研修報告書

平成29年 4月 6日

議員氏名 神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期 間 平成29年 3月29日（水）
- 2 視察先 兵庫県芦屋市
- 3 視察の種類 市民クラブ視察（会派視察）
- 4 視察の成果等

3月29日 兵庫県芦屋市  
「防災・減災に対する取り組み」について  
木口記念会館 NPO法人 兵庫県暮らしにやさしい防災・減災

## ☆テーマ：防災・減災に対する取り組みについて

### ☆目的

私たち市民クラブは上記の日程で、阪神淡路大震災（1995年1月17日発生）において、壊滅的な被害を受けた兵庫県芦屋市で活動するNPO法人「兵庫県暮らしにやさしい防災・減災」に視察研修をさせていただきました。震災の体験をもとに何が必要で、これからどうすべきであるのかをしっかりと聞きたく、そして、その取り組みを碧南市にも活用・横展開できるものは意見具申等を実施し、施策に反映することを目的に視察を行いました。

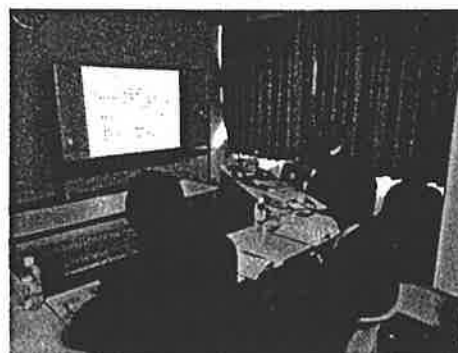
### 【木口記念会館内視察風景】

#### 《兵庫県芦屋市》

#### 視察内容（現状把握）

- ・活動の目的としては、いつ生じるか分からない自然災害に備えるために、子ども達、高齢者や認知症などの障がいを持つ方などに、防災・減災の正しい知識を誠実に分かりやすく伝えていくことにより、災害への不安を少なくし、自然の災いを防ぐ「防災」と被害を減らす「減災」に少しでも役立てたい気持ちから仲間が集まりこのNPOができたようです。

活動内容としては、地域や学校での防災意識啓発活動を実施。「やさしい防災・減災カルタ」をもとに、防災力アップ・地域力アップと自助意識の向上を目指し、



『みんなの命を守ろう!』と題する約1時間の出前講演を防災アドバイザー（防災士・市民救命士）が行っていました。  
【防災・減災カルタ】

◇活動内容のアイテム

紙芝居・カルタ・カルタの塗り絵・クイズ等

【所感】

- ある日突然発生し、甚大な被害をもたらす自然災害を「防災」「減災」の観点から防災講演会やカルタ取りなどを通じて地域や学校での啓発活動、講演会活動を実施しており、本市においてもこのようなボランティア団体が結成できれば大変ありがたいと感じます。

幼い頃からしっかりと防災・減災について正しい知識を教育し、自分の命は自分で守れる人材の育成が必要であると実感しました。大変すばらしい活動であるため、執行部への提言を実施したいと思います。

視察研修ありがとうございました。



市民クラブ

神谷 悟

# 視察研修報告書

平成29年 4月 5日

議員氏名 杉浦 文俊

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期 間 平成29年 3月29日（水）
- 2 視察先 兵庫県芦屋市
- 3 視察の種類 市民クラブ視察（会派視察）
- 4 視察の成果等

### 《防災・減災に対する取り組みについて》

・NPO法人「兵庫県暮らしにやさしい防災・減災」は2011年任意団体として設立され、2012年にNPO法人として活動を開始し、主に地域や学校での防災意識啓発活動を行っている。

・災害対策基本法が制定されると、災害が起こった際は、国や自治体が守ってくれると思いがちになり自助意識が欠如してきているため、啓発活動が必要であると理事長は話している。

・その中で活用されている「やさしい防災・減災カルタ」は、防災・減災の正しい知識を分かりやすく学び、高齢者、障害をもつ方、幼い子ども達といった災害弱者が、自分の命は自分で守り避難できるよう（自助）願いを込め作られた。

・また、阪神淡路大震災での経験も伝え、屋根の崩壊時にはベットなど家具の隙間に逃げ込んで助かった話や、液状化現象については自ら実験セットを作成し、体験することで液状化の恐ろしさを知ってもらおうと工夫している。

・子どもが防災・減災について関心を持つことで家庭の中で話す機会が多くなることになれば、それだけ災害時の対応ができるようになる。碧南市では新たに防災マップや小学校5・6年生を対象に「啓発用教材」を発行する。この機会に今一度、「自助」「互助」について考えていただきたいと感じた。碧南市では地域ごとに防災・減災について学ぶ機会があるが、その時に防災カルタや防災訓練を模した運動会など、多くの方に参加してもらい取り組みを行うなど、啓発活動を行っていきたいと感じた。